

2022（令和4）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472800265	事業の開始年月日	平成12年4月18日	
		指定年月日	平成12年3月28日	
法人名	医療法人社団 厚仁会			
事業所名	グループホームおおね			
所在地	( 257-0003 ) 神奈川県秦野市南矢名 2-12-1			
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名	
		ユニット数	1 ユニット	
自己評価作成日	令和4年10月15日	評価結果 市町村受理日	令和5年2月22日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者様のこれまでの生活習慣を尊重し、それぞれが得意としてきたことや行ってきたことをできるだけ続けて頂けるよう日々の生活の中に取り入れ、穏やかでいつも笑顔で暮らしていける環境を作り出せるよう職員全体で取り組んでいる。天気の良いときは散歩や買い物など出来るだけ屋外に出るようにし、お花見や夏祭り、クリスマス会など行い、その季節を感じたり、楽しんで頂けるよう努めている。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年12月8日	評価機関 評価決定日	令和5年2月5日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、小田急小田原線「東海大学前」駅から徒歩約5分の丘の上にあります。法人経営の病院の隣の5階建てビルの2階に1ユニットが入っています。上階の3フロアーには、同一法人の通所リハビリテーションが入っています。見晴らしが良く、自然環境に恵まれています。

<優れている点>

法人である病院と隣接しており、病院の代表者が理事長でもあることから、運営面や医療や健康管理面でも一体となり家族への安心に繋がっています。ヒヤリハット事案をきめ細かく集めデータ化した報告書を作成し、それを検証することによって再発防止に役立っています。また、自治会の入会や、隣家から農作物や果物などを貰ったり、散歩ルートのみ家への立ち寄りなど、地域との付き合いを積極的に行っています。食事は職員が手作りし、利用者は保有能力を大切に、簡単な料理や盛り付けなど積極的に参加してもらえるように促しています。季節を感じてもらえるように、四季に合わせた料理やおやつを手作りしています。また、利用者と一緒に絞り染め袋を作るなど、利用者が興味を持って頭と手を使うレクリエーションを行っています。長年勤続の職員もおり、落ち着いた支援を実践しています。

<工夫点>

利用者の心の安定に努め、職員全員が、1日1回は全ての利用者へ挨拶や会話などで声を掛けることを心がけています。医療現場での事故対応手法やナーシングサポート研修など、法人病院の知見やシステムを、職員のスキルアップに応用しています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームおおね
ユニット名	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="checkbox"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="checkbox"/> 1, 毎日ある <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまにある <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域社会の中で自立とふれあいを大切に豊かに明るく健やかに暮らせることを理念に掲げている日々の申し送りの中で話し合いを持ち、共有・実践に努めている。ダイルームや事務所に理念を掲示しており、いつでも確認できるようにしている。	利用者の主体性の尊重などをの理念・基本方針を掲げています。支援の現場ではまずは利用者の意向・気持ちを良く聞き、汲み取ることを大切にしています。マニュアル的な接遇よりも、心の通った接遇姿勢を大切にしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	令和2年3月から禁止にしていた面会を段階的に解除したり、近隣への散歩や美容師の訪問など地域とのつながりを少しずつ増やしてきている。	法人グループ全体で自治会に入会しています。隣の家から野菜や果物の差し入れを受けたり、散歩ルートの家で寛いだり地域との付き合いを構築しています。コロナ禍以前にはボランティアの来訪や、保健福祉会館で行う福祉フェスティバルにも参加していました。	コロナ終息後に備えて、ボランティアなど地域関係者との、定期的なコンタクトの維持が望まれます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	令和2年3月から外部との交流は制限している。包括支援センターなどの相談は電話で行っている。(新型コロナウイルス感染防止のため)	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度より当法人会議室にお集まりいただき開催している。参加者のご意見により今年度は書面での会議と併用していく。会議ではご利用者の近況報告や日々の暮らしを報告し、参加者からのご意見を参考にさせて頂き、日々の生活に活かしている。	コロナ禍の状況を見ながら、会議と書面開催とを併用しています。地域包括支援センター、自治会、法人である病院の副院長、家族、近隣住民が参加しています。行事や利用者の様子、ヒヤリハット事例など、事業所の近況報告をし意見を聴いています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議や入居者連絡票を通して情報を共有しています。市役所担当者や連絡を取り合い、相談・指導を受けている。	運営推進会議、介護保険関係、実地指導、地域包括支援センターとの連携など、事業所のほぼ全ての事案は、秦野市の高齢介護課との連携で進めています。運営推進会議議事録と共に、入居者連絡票を提出しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化のための指針に基づいた委員会を3か月ごとに開催している。チェックシートを用いて身体拘束についての理解を深める事や周知徹底を図っている。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月ごとに開催しています。職員はチェックシートによって、自らの日常支援での気づきを心がけています。法人病院の看護師・職員と共に、ネットのナースिंगサポート研修で身体拘束に関する学習を自主的に行っています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待について定期的に勉強会を行い、具体的な事例を用いて不適切なケアが行われないか常に意識し振り返るようにしている。	動画配信を活用した社内研修を行っています。管理者が講師となり研修を行い、事業所全体で知識を学んでいます。利用者の具体的な不穏言動を想定し、冷静に落ち着いて対応する為の学習をしています。管理者は職員のストレスが溜まらぬよう、休暇や休憩に気を配っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者様のご家族からの相談は管理者が対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居相談時より利用者及び家族からの問い合わせには管理者より説明行いご理解頂けるよう心がけている。契約の際は契約書及び重要事項説明書等で説明し、ご理解を頂けるように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホーム内に意見箱を設置している運営推進会議にて意見や要望を聞き対応している。また、利用者や家族らの日常生活での要望や不安な点は度職員が対応し、対応できない場合後日管理者が対応する。	夏祭り、焼き肉パーティー、クリスマス、漬物や団子作りなどの事業所内の行事や、花見や散歩先での写真を添えた四季報を家族に送り、感想や意見を聴いています。コロナ禍以前は、利用者の意向や希望を傾聴ボランティアが聞き、支援に繋げていました。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回行われているカンファレンスにて管理者や代表者に職員の意見や要望を聞く機会を作り、行事や介護方針などの提案があり、運営に反映させている。また、日々の申し送りで出た意見や要望は必要時管理者より代表者に報告している。	月例会議で職員の意見を聴く場にもなっています。行事内容や利用者の支援方法についての意見を取り上げ、事業所の代表に報告しています。法人病院の副院長が週に1~2回事業所に来訪し、職員とのコミュニケーションを取っています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格者や能力給を設け、職員の資格取得やケアの向上に努めている。3~4日の希望給を取り入れたり、労働時間内に業務が終えるように業務内容を調整したり職員が働きやすい環境を整えるよう努めている。	職員間で、待遇における不公平感が出ないように、年功や資格だけでなく能力給や業績に応じて管理者が査定し、その評価を経営者に上げています。職員の過重労働を避ける為に、休暇や休憩時間の取り方に配慮しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の研修に職員が参加できるようにしている。法人が契約しているe-ラーニングシステムにて職員各自スキルアップできる仕組みに努めている。	年間計画に沿って毎月行われる研修会以外にも、個人的に受けられるeラーニング研修システムも整備しています。受講ごとの理解確認テストの進行状況や内容を法人がチェックして、評価にも反映しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナウイルス感染防止のため、外部の同業者の立ち入りは開放しておらず、当職場からも、他への派遣はしていない。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に施設内の見学や管理者との面談を行い、疑問や不安、要望等を聞く機会を設けている。必要に応じてお茶や食事など体験入所をすすめ、ホームの雰囲気を知っていただく機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前の段階により本人や家族が不安に思っている事や訴えに対し納得して頂けるまで何度でも聞き取り、サービスに反映できるよう対話を通して信頼関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現時点で利用者が必要としているサービスについて家族・本人と話し合い、支援の調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の体調や行動を考慮し、毎日の家事の仕事、料理の手伝いや洗濯物畳み・干し、レクリエーションに参加して頂いている。人生の先輩であることを常に思い、笑顔で会話が弾むような声かけや誘導を心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	現在、居室での面会は控えて頂いているが、面会室にてご家族様や知人の方との面会を行っている。外出に関してもご家族様と相談し、可能な限り対応している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族や希望者には事業所の機関誌を年4回送付したり、年賀状を送ったりしている。また、居室に電話を設置しておりいつでも連絡が取れるようにしている。	コロナ禍で、人との出会いや馴染みの場所への訪問は控えていますが、昔馴染んだ趣味や習い事を楽しめるように提案しています。寄せ植えや習字をしたり、読書などを支援しています。自室で好きな歌を楽しむ人もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性や希望をふまえ、会話や交流が行いやすいように席を工夫したり、家事やレクリエーションなどを通して良好な関係を築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	家族や関係者などから契約が終了した後の本人や家族について相談があった時は、必要に応じて話し合いの機会を持つよう努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人がやりたいこと、してほしいことをその都度聞きながら職員間で話し合い、実現できるよう努めている。意思の疎通が困難な方には家族からの意見や普段の行動を観察し、意向を汲み取るよう職員間で検討し、支援している。	日々の生活の中で利用者がしたい事、食べたい物などを、時には答えやすい選択式で聞き取っています。意思疎通が困難な人には態度や表情から思いや意向を汲み取っています。把握した情報は申し送りやカンファレンスで職員全員で共有し希望に沿った支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にはご家族や本人からこれまでの生活歴などをお聞きし、職員間で情報を共有している。また、家族の面会や本人との日々の会話の中から生活過程の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人記録表にてバイタルや食事摂取量・一日の過ごし方や本人の様子など記録し、職員間の情報の共有や現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族と今後の暮らしの希望要望、本人の課題など話し合い、介護計画に反映している。必要に応じて医師や看護師の意見を取り入れている。	計画作成担当者が利用者や家族の意向・要望を基に、医師や看護師の日頃の意見やアドバイスを参考にしながら作成しています。その後カンファレンスにおいて職員で内容を確認・検討し、必要があれば加筆しています。モニタリングを毎月実施しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録表にて水分・食事摂取状況、体重・血圧、与薬状況、日々の状態等を記入し、職員間の情報共有や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	PTやデイケア、管理栄養士等法人内のスタッフを利用してサービスに対する助言を得たり、幅広い支援を出来るよう努めている。また、利用者の個別の要望に応えられるよう対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近辺への散歩の折、近所の方々と気軽に挨拶したり、近所の美容院に定期的に訪問をお願いし、地域の方々との交流を図っている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎月1回の主治医による内科検診がある。また、法人内の精神科、歯科往診に対応している。必要時、他科受診行えるようご家族の協力を得ながら支援している。	敷地内にある同法人の病院と密接な協力体制を取りながら健康管理に努めています。病院の内科医を主治医とし、歯科などほかの科の訪問診療もあります。眼科、整形外科など専門医の受診には家族が同行しています。診療経過は個人記録に記入し共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ご本人の日々の状態を観察し、異常時には法人内の病院やデイケアの看護師に相談し、受診や処置が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は施設での情報は管理者が必要な情報を提供する。入院後は家族は病院関係者と情報交換しながら本人の現状を把握し、早期の退院に向けて事業者で対応が出来るよう努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	現在、事業所では看取りは行っていない事や、重度化した際の対応について、退去の時期や目安について、入居契約時より説明行っている。重度化した際、医師や管理者からご家族に説明を行い、ご本人の状況に合う環境を提案している。	入居時、重度化した場合や「看取り」は実施しない事業所の方針を具体的に説明しています。退去の目安となる状態が近づいて来たら、家族の希望や本人の状態に合わせて特別養護老人ホームや法人の病院などの退去先を提案し、支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時のマニュアルがあり、事業所内に掲示し、周知している。法人内で定期的に勉強会があり、職員が参加している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	法人内で年二回の避難訓練と消防訓練を行い、避難経路の確認や災害時の対応の訓練を行っている。今年はグループホームの台所が火元として訓練を行っている。	法人総合の避難訓練を各棟、各階で実施しています。初期消火、通報、待機場所の確認、また夜勤者1人体制時の対応などを訓練しています。食料品や飲料水など災害時の備蓄品を法人内で一括管理しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排泄や入浴の介助などご本人が恥ずかしいと感じやすいような場面では周りの方に気付かれないような言葉かけや介助を行い、ご本人のプライバシーと羞恥心に配慮して対応するよう心がけている。	呼称は名字にさん付けとしています。排泄への声掛けは直接的な言葉を避け、ほかの用事に掛けて居室トイレに誘導しています。脱衣室に利用者それぞれの更衣用の籠を置くなど、一人ひとりの人格やプライバシーに配慮した支援をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の会話や行動の中から利用者が自分の意志や希望を実現しやすいような環境を作り出すようにしたり言葉かけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	会話の中から利用者の要望・希望をとらえ、出来る限りお手伝い出来るよう努めている。また、自分の意思を発言出来ない方でも表情や態度などから本人の意思に近づけるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った服装や、洋服・下着などその時々合ったものを用意し自分でも選択出来るように声かけ、用意している。散髪は家族の付き添いをお願いしているが、定期的に近所の美容師に来所してもらい、散髪を行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事のメニューや好みなど利用者と相談し、調理の下準備や盛り付け、食器の片づけなど一緒に手伝って頂くことで食事を通して皆と一緒に生活しているという実感、喜びを持ってもらえるようにしている。誕生日や祝日などは行事食を作ってお祝いしている。	食材は週2回、近所の店やスーパーマーケットで購入し、日勤職員が冷蔵庫にあるものを工夫して調理しています。野菜や果物など貰い物も多く季節感のある献立になっています。利用者は調理、盛り付けに参加しています。ケーキや、干し柿、漬物などを手作りするなど、楽しめるような工夫を取り入れています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食ごとに食事・水分摂取量、カロリー計算の記録を行っている。各利用者のし好や状態に応じて食事の形態や調理法を変えたり、摂取量が少ない方には補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の歯磨きの声かけ、見守りを行い、必要時には介助を行っている。義歯は夕食後洗浄剤にて殺菌洗浄を行い、歯ブラシは昼食後熱湯消毒し日光乾燥を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者の日々の動きや行動の観察、排泄の時間や回数を個人記録表に記録し、トイレへの誘導・介助を行い、トイレでの排泄の支援に活かしている。	排泄は自立の人が半数おり、申し送りや観察、個人記録表から排泄パターンを把握しています。トイレの場所が分からなくなった利用者には、食事の前後や入浴前など様子を見ながら、それぞれの居室トイレに誘導しています。適切な誘導で失禁が減少した利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日、体操や廊下歩行、散歩等から体を動かすように心掛けている。食事は野菜・水分等を多く摂るようにしている。各自排泄量を記録し、必要に応じて便秘薬を服用している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴の曜日は決まっているが、希望する時間や順番を聞きながら対応している。自立されている利用者の入浴では職員は立ち入り過ぎずマイペースで入浴できるよう努めている。介助の必要な利用者は浴室内のプライバシーを守りつつ洗身・洗髪等の支援をしている。	入浴回数は週3回としています。入浴日には全員が入浴しています。浴室内に見守りも含めて、入浴介助の職員1人、脱衣室に誘導・着脱介助の職員1人を配置し、安全性に配慮した入浴を心掛けています。仲の良い人同士で入浴することもあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の希望や季節を考慮して快適に過ごして頂けるように室温や光量、音調や寝具調整等を行う。寝具は週一回は洗濯し清潔を保ち、安心して気持ちよく休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方薬リスト集にて利用者ごとの服薬情報を把握している。処方薬の変更の際は受診ノートや申し送りを通して各自周知するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの得意とする事を活かして日常生活のお手伝い（野菜の下ごしらえや盛り付けなど台所のお手伝いや洗濯物の片づけ、裁縫など）や、昔から好きだったこと（歌や塗り絵、活け花等）を行い、張り合いや喜びを感じる日々を過ごせるよう支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	人ごみを避けたり感染防止の対応の上、できるだけ希望に添うように対応している。墓参りや外出の希望などご家族様や職員間で話し合い、実現できるよう支援している。	日常的に、利用者と職員1対1、または数人ずつで施設周辺を散歩しています。コロナ禍で遠出の外出は自粛していますが、隣接の公園で季節の花を觀賞したり、馴染みの民家の庭先で池や花木を眺めるなど、外の空気に触れる事ができるよう支援しています。	感染予防に配慮し、ドライブレクリエーションなど、季節の花の名所や利用者の思い出の場所などをめぐる機会を実施されることが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在、新型コロナウイルス感染防止のためスーパーやコンビニエンスストアなど不特定多数の方のいるがある施設への利用者様の外出は控えて頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	各居室に電話を設置しており、いつでも使用できるようにしており、自ら電話が出来ない方には職員が支援している。家族や友人からの手紙を取り次いだり年賀状など書ける方には書いて頂くよう支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食堂や廊下に季節の花を飾ったり、外出時や日ごろの写真、作品を掲示し皆で見て楽しんだり、家族の来所時に日常の様子が分かるようにしている。廊下や通路は車椅子で通れるように整理している。暖色系の照明を使用し、室温調整を行い心地よく過ごして頂けるよう努めている。	広く開放感がある居間では、利用者は新聞を読んだり、ソファで寛いだり、思い思いに過ごせるように、職員が見守りをしています。壁には季節の絵や絞り染めなど利用者の手作り品を飾っています。ベランダでも花や夏野菜を育てて楽しめるように、プランターを置いています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂や玄関前にソファを置き、一人の時間を過ごしたり、利用者同士やご家族、知人の方と過ごしたり、それぞれが自由に利用できるような場所を作っている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはご本人が長年利用されていた家具や寝具などを持ち込んで頂いたり、テーブルや壁には誕生日の写真立てや壁飾りが飾られていて穏やかに過ごせるよう心がけている	洗面台、トイレ、机、電話、ベッド、クローゼットを備え付けとになっています。利用者は寝具や衣類、テレビ、イスなど使い慣れた品を持ち込んでいます。写真や手作り品を飾るなど、落ち着いた暮らせるように、その人らしい部屋作りになるように工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内はバリアフリーで各居室にトイレ、流し台、空調設置し、廊下に手すりを取り付けてあるトイレや居室に分かりやすいように目印をつけたり、スケジュール表を貼りご自身で判断が出来やすいようにしている。		

2022年度

事業所名

作成日： 年 月 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	・コロナ禍のためボランティアなど外部との接触が少ない	・外部の人との交流を増やしていく	・コロナ禍前に来所していたボランティアの方に声をかける	1 2 ヶ月
2	21	・外出する機会が少ない	・お花見やドライブなど外出する機会を増やしていく	・デイケアの車を利用して近隣の公園やいべんどなどに出かけていく	1 2 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月